

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月13日
【四半期会計期間】	第20期第3四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	ルーデン・ホールディングス株式会社
【英訳名】	RUDEN HOLDINGS Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西岡 孝
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号 渋谷インフォスタワー2階
【電話番号】	03(6427)8088(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 佐々木 悟
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号 渋谷インフォスタワー2階
【電話番号】	03(6427)8088(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 佐々木 悟
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第3四半期 連結累計期間	第20期 第3四半期 連結累計期間	第19期
会計期間	自2018年1月1日 至2018年9月30日	自2019年1月1日 至2019年9月30日	自2018年1月1日 至2018年12月31日
売上高 (千円)	2,391,287	2,915,229	2,968,591
経常利益又は経常損失 () (千円)	56,746	20,223	16,543
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	33,701	4,037	48,300
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	33,445	3,870	49,028
純資産額 (千円)	2,855,147	2,830,998	2,796,768
総資産額 (千円)	3,311,830	3,280,497	3,147,206
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期(当期)純損失 (円)	2.89	0.32	4.07
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	2.43	-	-
自己資本比率 (%)	75.9	74.7	77.5

回次	第19期 第3四半期 連結会計期間	第20期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自2018年7月1日 至2018年9月30日	自2019年7月1日 至2019年9月30日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 (円)	1.40	0.50

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第20期第3四半期連結累計期間及び第19期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、輸出を中心に弱さが続いているものの、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が継続しております。しかし、海外経済の不確実性、原油価格の上昇や金融資本市場の変動の影響等依然として先行き不透明な状況が続いております。

一方、当社グループの既存事業と密接に関連する新築マンション市場、特に首都圏マンション市場におきましては、2019年の年間供給が3.7万戸（前年比0.8%増）と予想されておりましたが、当第3四半期連結累計期間においては供給戸数が前年同期比16.3%減、契約率においても9月度は60%を切る等（いずれも民間調査機関調べ）非常に厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のなか、マンションデベロッパー及び管理会社との取引関係のさらなる強化及び新規法人開拓の強化に注力してまいりました。

この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高2,915百万円（前年同期比21.9%増）、営業利益28百万円（同35.8%減）、経常利益20百万円（同64.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失4百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益33百万円）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

（ハウスクエア事業）

ハウスクエア事業に関しましては、密接に関連する新築マンション市場、特に首都圏マンション市場が厳しい状況で推移しましたが、マンションデベロッパー及び管理会社との取引関係のさらなる強化及び新規法人開拓の強化に注力し、中古マンション市場及び代理店事業が結果を出し、売上・利益ともに順調に推移いたしました。

以上により、当第3四半期連結累計期間におけるハウスクエア事業の経営成績は、売上高882百万円（前年同期比13.0%増）、営業利益186百万円（同49.8%増）となりました。

（ビル総合管理事業）

ビル総合管理事業に関しましては、求人募集費や現場人件費の増額等はありませんでしたが、新規取引先の獲得や臨時の売上等があり、売上・利益ともに比較的順調に推移いたしました。

以上により、当第3四半期連結累計期間におけるビル総合管理事業の経営成績は、売上高1,075百万円（同6.3%増）、営業利益45百万円（同66.4%増）となりました。

（総合不動産事業）

総合不動産事業に関しましては、売上はあったものの、想定していた利益は上げられず、非常に厳しい状況で推移いたしました。

以上により、当第3四半期連結累計期間における総合不動産事業の経営成績は、売上高956百万円（同65.0%増）、営業利益7百万円（同95.0%減）となりました。

（その他事業）

その他に関しましては、本格的な販売には至っておらず、非常に厳しい状況で推移いたしました。

また、当社の子会社であるRuden Singapore Pte. Ltd.のICOについては、当社及び当社監査法人は慎重に協議いたしました。総合的に考慮して、前連結会計年度に引き続き、第3四半期連結累計期間においても収益認識しないと判断し、重要性の観点から鑑みて、連結決算には組み込んでおりません。今後の会計処理については、協議をしたうえで、判断することといたします。そして、Ruden Singapore Pte. Ltd.の口座開設については孫会社の口座を利用することとしております。また、ICO時に調達した1,700Bitcoinについては、今のところ現金化しておりませんが、現段階では現金化の時期や方針について具体的に定まった方針はないものの、相場と資金需要をみて、順次現金化していく予定です。

以上により、当第3四半期連結累計期間におけるその他の経営成績は、売上高0百万円（同96.0%減）、営業損失20百万円（前年同四半期は営業損失41百万円）となりました。

財政状態の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は2,817百万円となり、前連結会計年度末に比べ138百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が869百万円、仕掛販売用不動産が110百万円増加したことなどによる一方、販売用不動産が887百万円、短期貸付金が384百万円減少したことなどによるものであります。固定資産は463百万円となり、前連結会計年度末に比べ271百万円増加いたしました。これは主に長期貸付金が228百万円、その他が40百万円増加したことなどによるものであります。

この結果、総資産は3,280百万円となり、前連結会計年度末に比べ133百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は431百万円となり、前連結会計年度末に比べ89百万円増加いたしました。これは主に未払金が56百万円、その他が53百万円増加したことなどによる一方、未払法人税等が29百万円減少したことなどによるものであります。固定負債は18百万円となり、前連結会計年度末に比べ9百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が5百万円、その他が2百万円増加したことなどによるものであります。

この結果、総負債は449百万円となり、前連結会計年度末に比べ99百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は2,830百万円となり、前連結会計年度末に比べ34百万円増加いたしました。これは主に資本金が7百万円、資本剰余金が7百万円、新株予約権が22百万円増加したことなどによるものであります。

この結果、自己資本比率は74.7%（前連結会計年度末は77.5%）となりました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,767,200
計	19,767,200

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,456,000	12,456,000	東京証券取引所 JASDAQ (グロース)	単元株式数 100株
計	12,456,000	12,456,000	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2019年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日 (注)	5,000	12,456,000	1,217	2,196,466	1,217	728,818

(注)新株予約権の行使による増加であります。

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,450,000	124,500	-
単元未満株式	普通株式 800	-	-
発行済株式総数	12,451,000	-	-
総株主の議決権	-	124,500	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が5,200株(議決権52個)含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ルーデン・ホールディングス株式会社	東京都渋谷区桜丘町20番1号	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年1月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、霞友有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	639,459	1,509,262
受取手形及び売掛金	274,188	345,425
商品及び製品	114,544	116,858
販売用不動産	1,348,889	461,281
仕掛販売用不動産	41,112	151,128
仕掛品	1,611	1,642
原材料及び貯蔵品	8,919	6,945
短期貸付金	396,557	12,500
未収入金	63,938	8,636
その他	72,421	203,385
貸倒引当金	6,057	-
流動資産合計	2,955,586	2,817,066
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	134,015	134,015
減価償却累計額及び減損損失累計額	77,389	79,073
建物及び構築物(純額)	56,625	54,942
機械装置及び運搬具	3,428	3,428
減価償却累計額及び減損損失累計額	2,969	3,038
機械装置及び運搬具(純額)	459	390
工具、器具及び備品	7,068	7,276
減価償却累計額及び減損損失累計額	4,552	5,237
工具、器具及び備品(純額)	2,515	2,039
土地	37,543	37,543
リース資産	3,700	7,236
減価償却累計額及び減損損失累計額	3,638	4,078
リース資産(純額)	61	3,157
有形固定資産合計	97,205	98,072
無形固定資産		
その他	10,403	10,403
無形固定資産合計	10,403	10,403
投資その他の資産		
投資有価証券	2,930	3,182
出資金	581	681
長期貸付金	-	228,000
破産更生債権等	644,314	658,645
損害賠償請求権	70,057	70,057
その他	80,499	121,330
貸倒引当金	714,372	726,942
投資その他の資産合計	84,010	354,954
固定資産合計	191,620	463,431
資産合計	3,147,206	3,280,497

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	81,984	87,959
短期借入金	2,600	2,600
未払金	144,499	201,463
未払法人税等	41,527	11,669
預り金	40,936	42,382
賞与引当金	-	2,395
売上値引引当金	540	405
アフターコスト引当金	2,165	2,000
その他	27,288	80,397
流動負債合計	341,543	431,274
固定負債		
長期借入金	-	5,452
退職給付に係る負債	8,842	10,134
その他	51	2,637
固定負債合計	8,894	18,224
負債合計	350,437	449,498
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,188,625	2,196,466
資本剰余金	720,977	728,818
利益剰余金	471,745	475,783
自己株式	290	290
株主資本合計	2,437,566	2,449,211
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	235	403
その他の包括利益累計額合計	235	403
新株予約権	358,965	381,384
純資産合計	2,796,768	2,830,998
負債純資産合計	3,147,206	3,280,497

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
売上高	1,239,287	1,291,229
売上原価	1,555,402	2,144,757
売上総利益	835,884	770,472
販売費及び一般管理費	791,175	741,777
営業利益	44,708	28,694
営業外収益		
受取利息	11,504	2,558
受取配当金	58	231
その他	4,614	1,122
営業外収益合計	16,176	3,912
営業外費用		
支払利息	13	112
貸倒引当金繰入額	-	9,122
控除対象外消費税	3,373	2,720
その他	752	427
営業外費用合計	4,139	12,382
経常利益	56,746	20,223
特別損失		
固定資産除却損	619	-
特別損失合計	619	-
税金等調整前四半期純利益	56,127	20,223
法人税、住民税及び事業税	31,430	23,987
法人税等調整額	9,004	274
法人税等合計	22,425	24,261
四半期純利益又は四半期純損失()	33,701	4,037
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	33,701	4,037

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	33,701	4,037
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	255	167
その他の包括利益合計	255	167
四半期包括利益	33,445	3,870
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,445	3,870
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1. 売上高から次の金額が控除されております。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
売上値引引当金繰入額	333千円	8千円

2. 前第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

当社グループの売上高は、主力事業であるハウスクエア事業において、第1四半期連結会計期間から第2四半期連結会計期間にかけて集中し、増加する傾向があります。このため、各四半期連結会計期間の業績に季節的変動があります。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

当社グループの売上高は、主力事業であるハウスクエア事業において、第1四半期連結会計期間から第2四半期連結会計期間にかけて集中し、増加する傾向があります。このため、各四半期連結会計期間の業績に季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
減価償却費	7,784千円	2,877千円
のれんの償却費	7,625千円	-千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

株主資本の金額の著しい変動

当社は、2018年1月26日付で、チャイナトラベル1号有限責任事業組合から第三者割当増資の払込みを受けました。また、2018年1月26日付でチャイナトラベル2号有限責任事業組合に発行した新株予約権の行使がありました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が376,725千円、資本準備金が376,725千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,185,912千円、資本準備金が718,265千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ハウスケ ア事業	ビル総合 管理事業	総合不動 産事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	780,678	1,011,610	579,628	2,371,917	19,370	2,391,287	-	2,391,287
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	780,678	1,011,610	579,628	2,371,917	19,370	2,391,287	-	2,391,287
セグメント利益 又は損失()	124,373	27,577	146,332	298,283	41,322	256,960	212,251	44,708

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェア開発事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 212,251千円には、のれん償却額 7,625千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 204,625千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ハウスケ ア事業	ビル総合 管理事業	総合不動 産事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	882,555	1,075,710	956,182	2,914,448	780	2,915,229	-	2,915,229
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	882,555	1,075,710	956,182	2,914,448	780	2,915,229	-	2,915,229
セグメント利益 又は損失()	186,346	45,899	7,344	239,590	20,878	218,711	190,017	28,694

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェア開発事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 190,017千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 190,017千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()	2円89銭	0円32銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	33,701	4,037
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	33,701	4,037
普通株式の期中平均株式数(株)	11,673,401	12,437,661
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	2円43銭	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	2,198,197	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月13日

ルーデン・ホールディングス株式会社

取締役会 御中

霞友有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉田 恭治 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山崎 安通 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているルーデン・ホールディングス株式会社の2019年1月1日から2019年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年1月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ルーデン・ホールディングス株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。